令和４年度 事業報告
【 上牧の郷 グループホーム 】

＜数値目標＞

1. 実稼働率 平均 98%を目指す
2. 職員定着率 100%を目指す
3. １日１件見過ごしているヒヤリハットに気づく

＜報告＞

1. 利用稼働率 平均 98.4%でした
   看取りのご利用者様２名がご逝去された後、新たなご利用者が入居するにあたり、新型コロナウィルスの影響もあってスムーズにいきませんでしたが、目標は達成しました
2. 職員定着率 93.3%（退職２名）
3. 達成できなかったため、今後の事業計画を見直す

＜行動目標＞

1. 認知症対応の介護のプロとして、全職員が標準的な認知症ケアが行えるようにする
2. 楽しみのある生活に取り組む
3. 家族のようにお互いを必要とし、尊重し合える関係を構築する

＜報告＞

令和４年度は、なんといっても初めてのクラスターを経験したことが大きかったです。9月１日～18 日までグループホームを初めて完全閉鎖することとなりました。各ご利用者様は各居室で隔離対応となったこと、勤務する職員の数が減少したことで、ご利用者様への関りが大幅に減少し、ご利用者様の意欲低下につながってしまいました。結果、看取り対応させていただいておりましたご利用者様のお一人が、クラスター終息後まもなくお亡くなりになられたことは、痛恨の出来事です。もっとできることがあったのではと、残念な思いを残しております。

目標に掲げた「認知症のプロ」としての部分ですが、認知症についての研修、ケアカンファレンス等を通して、認知症ケア力の向上に努めました。 また、認知症ケアの基準に達しない職員には、定期的な個人指導を実施し、レベルアップに繋げました。

目標の「楽しみのある生活」ですが、居室担当を中心として取り組み、ご家族様と一緒にお誕生日をお祝いし、良い思い出作りとして写真撮影等に取り組んでいます。また、食事作りをレクの定番として取り組んでおります。徐々に手伝えるご利用者様が減ってきてはおりますが、「匂い」「音」「触れる」「視る」「味わう」を大切に継続しています。さらに、コロナ禍でも、柿狩り・芥川の太鼓部の演奏会・お餅つき・初詣等楽しい時間を共有で来ました。当たり前の日常が戻りつつありますが、当たり前では無くコロナ禍の経験をプラスにし、ご利用者様の生活を支えていけるよう取り組んでいきます。

最後に、ユニット内の空気感・環境づくりにも取り組み、職員同士の意見交換、相談できる関係づくりを大切にし、意識して日々の業務に取り組みました。